

壽永三年四月廿四日

正四位下源朝臣御判

〔吾妻鏡〕六文治二年四月十三日庚申北條殿政時自京都參著京畿沙汰間事條々有御問略中次播磨國守護人妨國領由事在廳注文景時代官狀雖被下之未申切是非次今南石負兩庄并弓削抽兵糧事度々被下院宣之間早可停止之由捧請文下向畢六月九日乙卯去四月之比政道事殊可致興行之趣付議卿令奏聞給了勅答之條々執職事目錄帥中納言被進之今日所到來也

條々略中

一播磨國武士押領所々事

委細成敗之條返々所感思食也人々愁已散歟但カキテ持テ保ホウク桑原五箇庄上カミカウモリヒサシハクメノ幡東這田庄等猶令召進去文給式或國領眼也或難去思食凡景時申狀一旦雖似有其謂張行國中之時爲免一日之命有寄附所或自由有押領之地以之稱相傳歟安田庄自領家若狹局雖稱預給全不然以之察可彼男一類偏蔑如國務早可被誠仰也於此國一國者可然者可去進由今被仰也度々可隨仰之由言上訖仍仰能保朝臣被遣仰畢一旦雖逃去猶隱居傍庄催當國之輩伺隙又致濫妨能々可被誠仰也桑原事殊有被仰之旨

〔十六夜日記〕のころよもぎとかこちけるといふ所のうらがきにくわうたいこぐうの大夫玄ゆんせいの卿の御むすめちのゆづりとてはりまのくにこしへのまやうといふところをつたへまられけるをさまたげおほくてむかしむさしのせんじ北條へことなるそせうにはあらでまいらせられけるうたまんちよくせんにも入とやらん略下

〔神護寺文書〕神護寺領播磨國福井庄西保沙汰人地頭非法條々

一下司公文給田屋敷事
右對決預所法橋有全與地頭代右兵衛尉賴康令進覽申詞記於關東之處去貞永元年九月廿四